ココロ踊る！山麓生活のススメ(第15回)

希望のリンゴの木

2022.06.17

昨年の3月にわが家の土地を入手した直後、一番始めに植えたのはリンゴの木。リンゴは八ヶ岳山麓の冷涼な気候にも合うし、花がきれいで、実のなる姿もかわいらしい。そのうえに、おいしいリンゴが収穫できたら言うことなし。栽培2年目、思うようにはいかないけれど、それがかえっていとおしさを生むのかも。


秋、立派な実をならせるリンゴ(写真はこうなったらいいなというイメージです)

植木店の「ふじ」と「つがる」

私の街のホームセンターでは、3月になるとリンゴなど果樹の苗木が並ぶ。昨年の春は、ホームセンターの近くを通るたびにどの店の苗がよさそうか、チェックをしていた。でも、どれも一本棒でひょろりとした、1mぐらいの木で(1年生苗というらしい)、なんだかピンとこない。

ある日、急に思い立って、夫と一緒に植木の専門店を訪ねることにした。すると、近所のホームセンターでは売っていない、太くて立派な苗木が売られていた。品種は「ふじ」と「つがる」。4～5年生だろうか、枝ぶりも立派だ。私は一目ぼれに近い直感で「これだ！」と思った。

リンゴは自家受粉しないので、実をならせるには2品種を近くに植える必要がある。そして花が咲いたら、お互いの花粉をハケなどで花に付けるといいらしい。栽培の手引きによると、「ふじ」と「つがる」ならば相性もいいし、シャキッとした甘い実がなるとあるから申し分ない(もちろん成功すればだけれど)。でも、夫は値段を見て「両方とも買うの？」と少しためらう。1本3500円。締めて7000円。初心者が手を出すには高過ぎないか、と言うのだ。

1本で35個採れれば

ホームセンターで見た1年生苗はひょろひょろだけれど1000円以下、それに比べれば高い。でも、この太さの木はなかなか入手できないし、1年生苗よりもずっと早く実がなるだろう。どうしてもその木が欲しかった私が、夫の説得に使ったのは主婦のソロバン。

「スーパーの特売でリンゴ1個100円だとして、1本の木から35個収穫できれば元が取れちゃうよ」と言ってみた。1年で3、4個ずつでも実れば10年で35個。計算しているうちにそのくらいは絶対に収穫できる、と根拠のない自信が湧いてきた。夫は「そんなに立派に育てられるのかなあ」と疑心暗鬼ながらも許可してくれたので、早速お店のおじさんを呼んで「ふじとつがる

をください」と言った。

「お、リンゴだね。甲府市内？」と聞かれた。北杜市ですと伝えると「いや～、北杜だとまだ寒くて、今植えてもきっと失敗するから、あと3週間ぐらい待てない？」と、思ってもみなかったことを言われた。寒いときに植え付けをすると根が凍って枯れたり、弱ったりするらしい。「3週間もですか……」。私は今すぐ買って、植え付けをしたかった。でもプロの言うことは絶対に聞いた方がいい、と今度は夫に説得されて、渋々その日は手ぶらで帰ることに。

そして、4月。ぴったり3週間後にまた店を訪ねた。おじさんは「ああ、この前の」と私のことを覚えてくれていて、「まだちょっと早い気もするけれど、植えてみる？」と言いながら、仮植えされていた苗を掘り起こす。「リンゴは果樹の中でも難しいから、頑張れよ。いい実がなったら売りに来てくれ」と冗談を言いつつ、苗を車に積んでくれた。

受難の木… 続きを読む